

事業の実績	2024年に本学外国語学部と台湾・東海大学文学院との間で新たに交流協定を締結したことを受け、両大学の交流を促進するため、東海大学を訪問して学生交流および教員同士の交流を実施した。参加したのは、外国語学部東アジア学科の学生9名および引率教員1名であり、8/8～10の日程で東海大学に滞在し、東海大学文学院（日本語言文化学系、中国文学系）の教員・学生と交流した。 【日程】 （事前指導） ・2024/04/24 台湾の地理 ・2024/05/01 事前指導（研修日程ほか） ・2024/06/05 東海大学での活動 ・2024/06/12 台湾に関する基礎知識 ・2024/08/08 華語中心見学、キャンパスツアー、大学周辺見学 ・2024/08/09 台中市内でのフィールドワーク
具体的な成果	外国語学部東アジア学科で実施している「中国海外語学研修Ⅰ・Ⅱ」では、毎年3週間の中国語研修を行っており、今年度は外国語学部東アジア学科の学生9名が参加した。8月8日から10日まで東海大学に滞在し、東海大学文学院（日本語言文化学系、中国文学系）の学生と交流しながら、台中市内で共同フィールドワークを実施した。 初日の東海大学華語中心見学、キャンパスツアーでは、華語中心においてどのような中国語教育が実施されているか、またその設備についても詳しく説明を受けた。その後、図書館やキャンパスのシンボルととなっている路思義教堂を見学するなどし、留学先としての魅力を感じることができた。 フィールドワークでは、参加者をグループに分け、伝統的市場、ローカルスーパー、高級スーパーをそれぞれ1か所ずつ訪れた。特に日本に関連する食材がどのように販売されているか、また日系のチェーン店がどのように進出し、台湾市場に根付いているのかを調査した。実際に商品を観察し、価格や品揃えを比較しながら見学することで、台湾社会における日本の食文化の受容のされ方や、日本ブランドの影響力について理解を深めることができた。さらに、フィールドワーク後の議論では、日本と台湾の食文化や消費文化の違いなどについて意見を交換し、日台の文化的差異についてより深く考察する機会となった。 今回の研修に参加したのは、東アジア学科中国語専攻の2年生であり、多くの学生にとって初めての海外経験、そして初めての中国語圏での滞在であった。これまで教室で学習してきた中国語を、実際の生活の中で使用することで、言語運用能力を試す貴重な経験となった。また、同世代の台湾人学生との交流を通じて、教科書では学べない生きた中国語に触れることができた点も大きな収穫である。現地の学生との会話を通じて、実践的なコミュニケーション能力を磨くことができたほか、台湾の文化や価値観についても理解を深めることができた。これらの経験は、中国語学習への意欲向上にもつながり、今後の学習へのモチベーションを高める重要な契機となった。